



まおゆう 魔王勇者

「この我のものと なれ 勇者よ」「断る！」

第十巻

Comic
Ishida Akira
Author
Touno Mamare

漫画
原作 石田あきら
キャラクター原案 水玉鏡之介・toi8
イラスト 橙乃ままれ

KCA264-13
角川書店



9784041210475



1920979005808

ISBN978-4-04-121047-5

C0979 ¥580E

定価：本体580円(税別)

発行：株式会社KADOKAWA

KADOKAWA

まおゆう 魔王勇者

「この我のものと なれ 勇者よ」「断る！」

第十巻





Archenemy and Hero 魔王 勇者

「この我のとなれ勇者よ」「断る！」

第十卷

漫画 原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉鏡之丞・toi8

Kadokawa Comics A



まおゆう

魔王 勇者

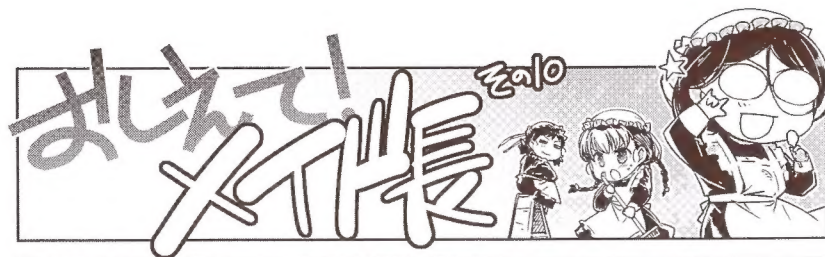
「この我のとなれ勇者よ」「断る！」

第十卷

Comic
Ishida Akira
Author
Touno Mamare

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉鏡之丞・toi8

KCA264-13
角川書店



KADOKAWA





第三十二話 Archenemy and Hero
32nd chapter

ふたりで歩きたかっただけだ



Archenemy
and Hero

魔王 勇者

「この我のものと なれ 勇者よ」 「断る！」

世界 原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉鏡之丞・toi8

まおゆう

魔王勇者

第十巻

漫画 原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉鏡之丞・toi8

第三十二話 Archenemy and Hero 32nd chapter

001

ふたりで歩きたかっただけだ

第三十三話 Archenemy and Hero 33rd chapter

049

道

第三十四話 Archenemy and Hero 34th chapter

103

人間は生まれた時から世界に巻き込まれてるんです



まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!!」

Archenemy and Hero

第十卷

漫画原作

石田あきら 橙乃ままれ

キャラクター原案

水玉螢之丞・toi8

コラムページ

竹之内大輔(レッカ社)
野村昌隆

まおゆう 第九巻のあらすじ

Lectures on Archemany and Hero
Outline of volume.9

世界の変革を目指し、ともに歩み始めた「魔王」と「勇者」。二人が人間界の「冬越し村」で活動を始めてから3年、「紅の学士」として魔王が「冬の国」にもたらした数々の技術や知識は、近隣の「鉄の国」や「氷の国」にも伝播して人々の生活を大きく改善した。着実に国力を増していった三国は、「聖王国」の搾



取から脱却すべく

「三国通商同盟」

を結成。さらに、同

盟諸国は「女騎士」

が所属する「湖畔

修道会」を新たな

国教に制定し、聖

王国を頂点とする

中央との対決を覚悟の上で、経済面・精神面

の双方における自立をはかるのだった。

こうした情勢の変化は、人間界最大の経済

団体「同盟」をも動かした。同盟の

幹部「青年商人」は、小麦を用いた二

大通貨制の確立を画策。さらに「火

竜公女」との邂逅を経て、魔界への

販路拡大を念頭に「火竜大公」との

交渉に臨み、塩の通商協定を締結す

るに至った。

一方、人間界での改革がひと段落

したことを受け、魔王は黒騎士に変

装した勇者と「メイド長」をともな





つて魔界に帰還。魔族の大部族会議「忽鄰塔」を開催し、八大氏族の長を集めた会議の席上で人間との停戦を訴えた。蒼魔王による魔王の廃位動議でひと波乱あったが、火竜大公や「東の砦将」の機転で会議はどうにか収束。しかし、今度は魔王が刺客

に狙撃されて重体となつてしまふ。だが、この危機をチャンスととらえた魔王は、自身の死亡を告知させて罠を張った。そんななか、両目に魔王の刻印をもつ蒼魔の王子が、父・蒼魔王を弑逆して即位。「蒼魔の刻印王」として、新たな魔



王候補に名乗りをあげる。ほかに候補者もなく、新魔王として戴冠する刻印王。彼が内心ほくそ笑んだその時、蒼魔族の陣営にいた刺客の存在が明らかになる。問い詰められ

た刻印王は、忽鄰塔の終了を宣言して対抗。万事休すと思われたその時、勇者に支えられた魔王が姿を現す。刻印王は完全に追い詰められ、伏せていた兵士たちに命じて魔王を討ち取らんとするが、勇者や族長たちの活躍でどうにか撃退に成功。刻印王は、兵を率いて自領へと撤退していった。戦



いののち、勇者は兜を脱いで族長たちに正体を明かすと、魔王の胸の内を代弁。刻印王の一件は、はからずも部族長たちの結末に繋がる結果となった。しかし、依然として魔王が重体であることには変わりはない。魔王は自らの権威を大部族会議に預けると宣言し、久々に人間界へと戻るのだった。

魔王

外なる図書館で得た知識をもとに、世界の変革を目指す魔族の王。魔族の有力氏族から人間との停戦合意を取り付けたが、刺客に襲われ重傷を負う。現在は人間界の冬越し村で療養中。



メイド長

魔王が幼い頃から世話をしている側近。彼女の幸せを願っており、彼女の夢をかなえるために手足となって尽力している。



メイド姉

魔王の館でメイドとして働く元農奴の少女。魔王やメイド長の下で多くを学ぶなか、自身の存在意義について考え始める。



メイド妹

姉とともに魔王の館で働くメイド。食いしん坊が高じて料理に目覚めた。日々新たな料理を考案。レパートリーを増やしている。



青年商人

人間界で最大の経済団体「同盟」の幹部。魔界に新たな販路を求め、その第一歩として火竜大公と塩の通商協定を結んだ。



火竜公女

火竜大公の娘。開門都市の代表として人間界を訪れ、青年商人に塩の入手を依頼。彼と行動をともにし、見聞を広めている。



王弟元帥

聖王国の王の弟で、人間界の英雄と目される実力者。マスケット銃の特性に着目し、農奴を集めて民兵とすべく訓練をしている。



東の砦将

聖鍵遠征軍の元士官。人間も含めた都市の住民を「衛門族」とし、その族長として「忽鄰塔<クリルタイ>」に参加して、魔王の危機を救った。



勇者

魔王とともに歩む青年。魔界では黒騎士を名乗り、魔王の代理人として活動していたが、魔王暗殺未遂事件を受けて族長たちに正体を明かした。



女騎士

元「勇者の一行」のひとり。魔王の正体を知りつつ二人に協力しているよき理解者。魔王とは恋のライバル関係でもある。



冬寂王

冬の国の若き王。鉄の国や水の国と同盟を結び、聖王国や中央教会からの自立を画策。三国の盟主として危機に対応している。



女魔法使い

元「勇者の一行」のひとりで、人間界最強の魔法使い。魔王と同じ図書館族となり、世界について数多くの知識を得た。



火竜大公

竜族の長



紋様の長

入魔族の長



妖精女王

妖精族の長



鬼呼の姫巫女

鬼呼族の長



蒼魔の刻印王

蒼魔族の新たな長



碧鋼大将

機怪族の長



銀虎王

獣牙族の長



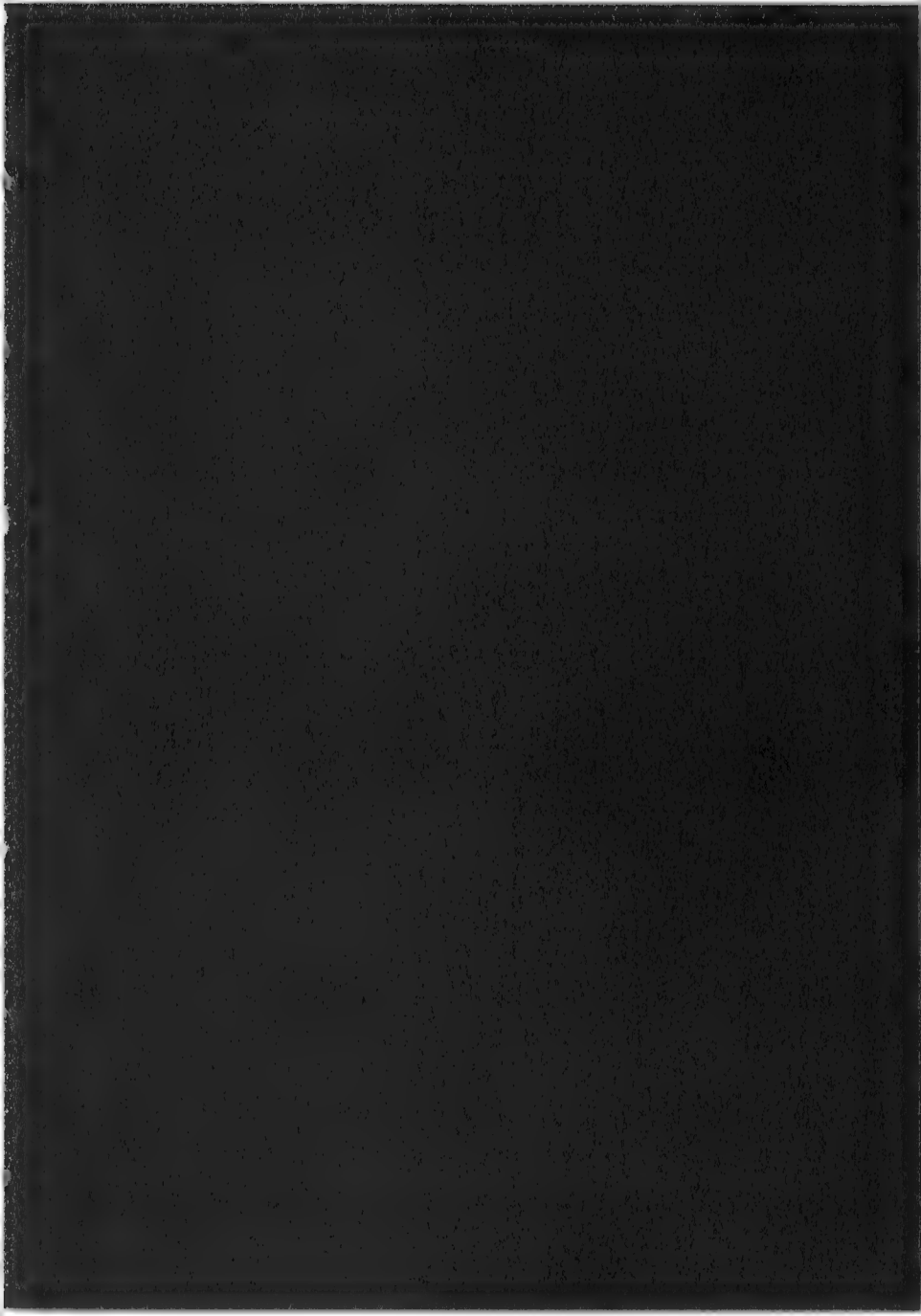
巨人伯

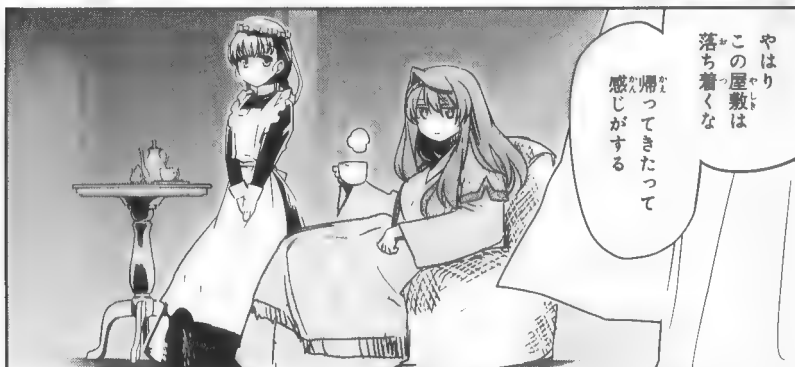
巨人族の長

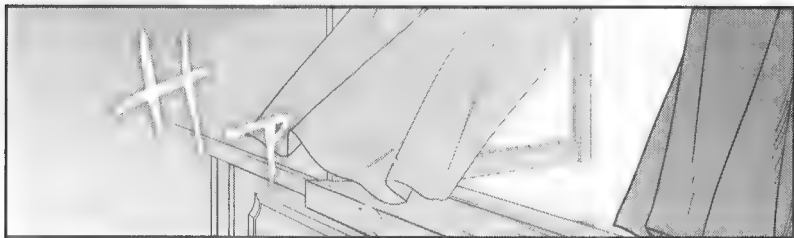


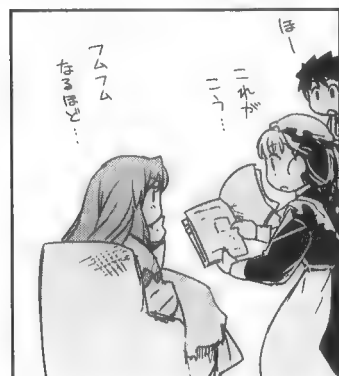
執事

「伝説の弓兵」と呼ばれる元「勇者の一行」のひとり。現在は執事として冬寂王に仕えており、諜報活動などをこなす。











子弟さんたちも
立派にお仕事を
されていますよ

久しぶりに
お会いした時は
見違えました

ああ

三人が送ってくれた
鉱物や地質サンプルには
助けられたぞ

機怪族との交渉で
使ったやつか

トラ

そういえば
報告のなかに
子弟たちの
近況もあつたな

たしか
二三年前に...

ガサガサ

おっ

どれどれ

商人子弟は
冬の国の財務長として
しつかり
やっているようだ



今まで
中央頼り
だった予算を

冬の国独自の
予算に組み替えて
うまくまわしている



馬鈴薯の増産が
軌道に乗り

食料の自給率が
上がったことも
あるが



中央との決別で
変わった状況下で
経済的自立を
果たしつつある



羊皮紙などに
記されていた
過去の記録も
紙に移し替え

難民などで
増えた人口にも
対応できている

戸籍の登録や
記録の蓄積は
大切なことだからな

高い役職に就けば
責任も重くなるが
できることも
多くなるものだ

それを理解して
大胆に予算を
組むことができて
いるようだな

軍人子弟は
鉄の国の薩民卿と
なったのか



鉄の国は
冬の国と同じく
流入する難民が多い



彼らを軍が
工兵として雇用

平時は
農業に従事する
半農半軍の組織を
新設しようだ



荒地を
開墾などして
食糧不足を
補う計画だ

五年勤めれば
適当な金額と農地を
与えるのだという



これは
治安維持や
当面の問題解決に

大きな効果を
発揮するだろう

また開拓や
道路の整備などの
公共財の充実に
効果があるはずだ



今この瞬間は
これだけの難民が
一挙に入ってきて
実際に耕す地面がない

それではみんなが
飢えてしまう
耕作するためには
開拓しなければ
ならないんだからな

この開拓を
軍という
集団の力で

実行して
しまえるのは
大きい



多少失敗する
かもしれないが
きつとうまく
対応してゆくさ

こういうのは
きちんと考えて
計画を立てると
同じくらい

手直し
してゆくのも
重要なんだ



貴族子弟は氷の国の
外交特使として各国を
飛び回っているらしい

三国同盟への理解を
示す国を懐柔し

三国を超えた
同盟への道を
つくり出すとしている

多くの国や
領地が通商や
同盟を望んだ

しかしそれを
表明するのは
難しい

聖王国や
教会への反抗だと
取られるからだ

そして
東の大国である
赤馬の国

この国が同盟に
参加しないと
中央との挟み撃ちに
なってしまう

赤馬の国

吟遊詩人の詩からの
伝聞だから誇張は
あるかもしれないが

貴族子弟は
赤馬の国の王子と
友人になり

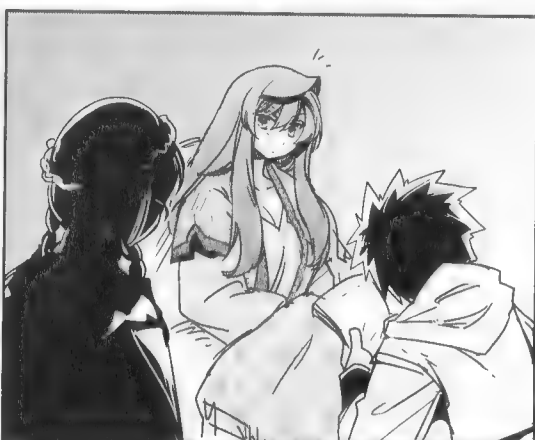
一〇〇人の山賊相手に
大立ち回り

他国の姫との
悲恋を取りもつなど
大活躍――

☆
本当なのか
これ？

ついに赤馬の国との
同盟交渉を持つに
至ったらしい

それを受けて
他の国も
多くが追従する
動きを見せている















いや付き合え
だなんて
言うから
何かあるん
だろう？



え？



で
どうしたんだ？
女騎士



いいや

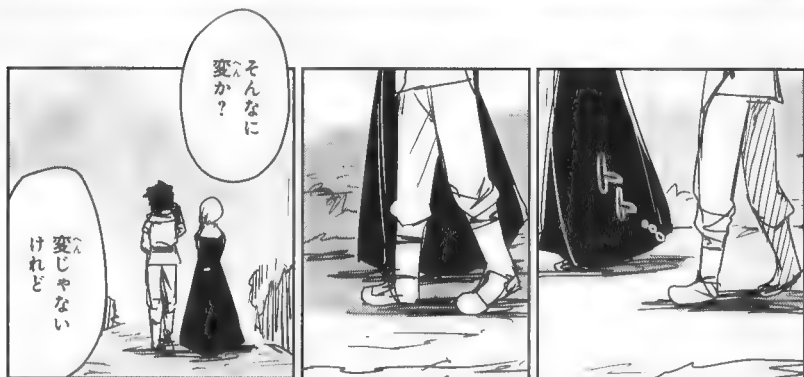
なんにも
ないぞ

え

えー！？



ただ二人で
歩きたかった
だけだ



別に何を
しようって
いうわけでも
ないんだ

ただ修道院まで
この木立の道を
歩いてみたかった
だけだ

そっか





へ!?

何だ
その呼び方



なあ

主人

もし…



いや
その理屈は
おかしい

勇者は
私の剣の主だろう

忠誠を誓う相手
どう呼ぶかは
私の自由だ



ごは…

じゃくー…

世界が
変か、ちまっ?!



そうか

二人の時は
よいかと
思ったんだが

主人なんて
柄じゃないよ

カンベン
してくれ











魔族の女の子も
きやわゆいですなあ

…率直に
申しまして



美人な娘も

可憐な少女も

特上級の
バインバインまで

まさに 人間界の
常識にとらわれない
多種多様な女の子に
あふれておりました



旅の吟遊詩人の
娘の歌も また
すばらしく…

待て
待て！

そんなことしか
見てこなかったのか！

そんなこと
とは 心外な

もっとも重要な
ことですよ？



普通に笑い
普通に暮らし

姿形や
文化こそ違えど



魔族たちは
教会のいうような
邪悪なだけの
存在などではなく



魂もつ者で
ございました

魂もつ者…

…なるほど

大部族が集まって
魔族全体の意思を
決める会議が
行われていた…と

はい

魔王は必ずしも
絶対の支配者では
ないようです



魔王…

その姿を
確認できたか？

いったい
どのような
男であった



残念ながら
姿を確認するには
至りませんでした





ただの最中
会議の最中
大部族のひとつが
魔王に離反

会場で魔王は
傷を負った
ようです



魔族も
一枚岩ではない
ということか

それでは地上に
侵攻してくることは
しばらくなさそうだな

そうとも
限りませぬ



離反したのは
その一部族だけで
魔界を二分する
ということも
ないようだが

不安定な情勢には
変わりませぬ

用心に越した
ことはないかと

うむ



しかし
それにしても…

やはり魔族は
言葉や意思の通じぬ
存在ではないと
いうことか



敵として
見るだけでは
わからぬことだな

はい

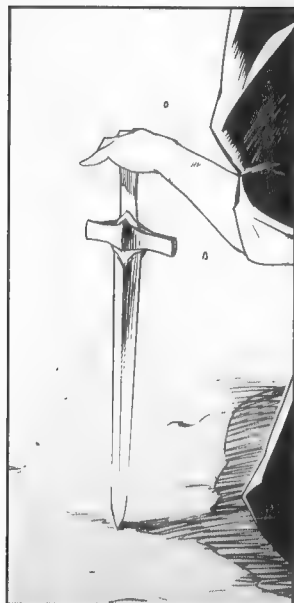
私もこの歳になって
目を啓かされた
思いです



地下の魔族



地上の人間











中世の軍隊事情

現代のように物資が豊富でなく
余剰の食料がない中世では
必要な軍隊を養ううえでも
なにかと工夫が必要だった。



軍隊という組織の力は、戦場で戦う場合だけでなく開墾のような場面でも有効だ。

兵士が開墾や耕作に従事する屯田制

現代の軍隊は、平時・戦時に関係なく常に組織されている、「常備軍」が一般的になっている。しかし、中世の封建体制下では、軍隊は必要になってから集める形が主流だった。

なぜなら、大規模な常備軍を維持するためには、相應の経済力が必要になるが、当時の社会には、生産活動を行わない大量の人員を食わせていけるほどの余裕がなかったためだ。

中世の封建社会でも、農法や道具の進歩によって、耕作地や収穫量が増えてはいた。ただ、食料事情の改善によって人口も増えており、不作になればすぐに飢饉が発生するような状態だった。中世の軍で、その中核を担っていたのは、領主である諸侯や騎士たちだ。領主は領民を守護する名目で土地の主となっていたの

で、自前で武装を用意していた。武装を常時用意しているという面では常備軍と似ているが、彼らは常に軍人として待機しているわけではない。とくに位が低く所領もごくわずかな騎士の場合、自ら畑を耕す者も多かった。随時募集される兵士と同じく、半農半兵的な者もいたのである。

劇中では、軍人子弟がクワを振るって開墾に従事している姿が見られる。これは「屯田」と呼ばれ、実際にローマ帝国や古代中国などで行われていたものだ。未開拓の土地がある国境付近に軍隊を派遣し、開墾を行って耕地を確保。兵士たちはその耕地で農業に従事し、自活しつつ防衛の任に当たったのだ。屯田の利点としては、軍隊に開墾をさせることで組織的な作業が行えること、新たな耕地で自活させることにより、内地から食料を送る必要がないことなどがある。開墾した土地を所有することにすれば、兵士たちの防衛意識が強くなり、士気を高める効果も期待できる。

とくにローマ帝国の場合は、新たに占領した国に屯田兵を送り、開墾だけでなく水道や街道の整備なども行っていた。ローマの属州になれば、こうした恩恵が受けられるということでも、進んでローマの傘下に入る地域もあったという。なかには、流入してきた他民族を屯田兵としたケースもある。国内領土の耕地を割くことなく移民の生活圏を築くことができるので、彼らへの対応策としても有用だった。日本でも明治時代に屯田制が採用されており、多くの人が北海道の開拓に力をつくしていた。



多くの国が地続きであるヨーロッパにおいて、屯田は移民対策の面でも有効だった。

その先にある闇

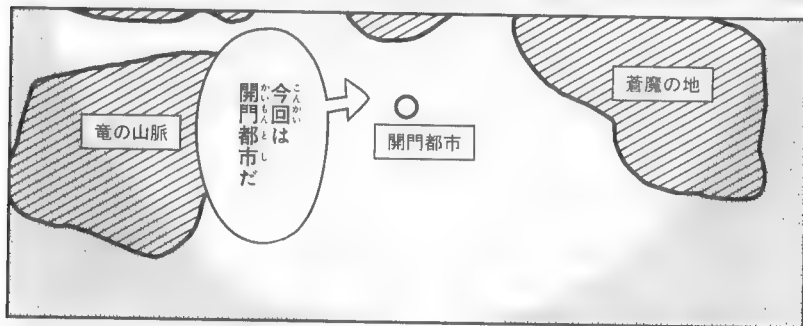


まおゆう

魔王勇者

第三十三話



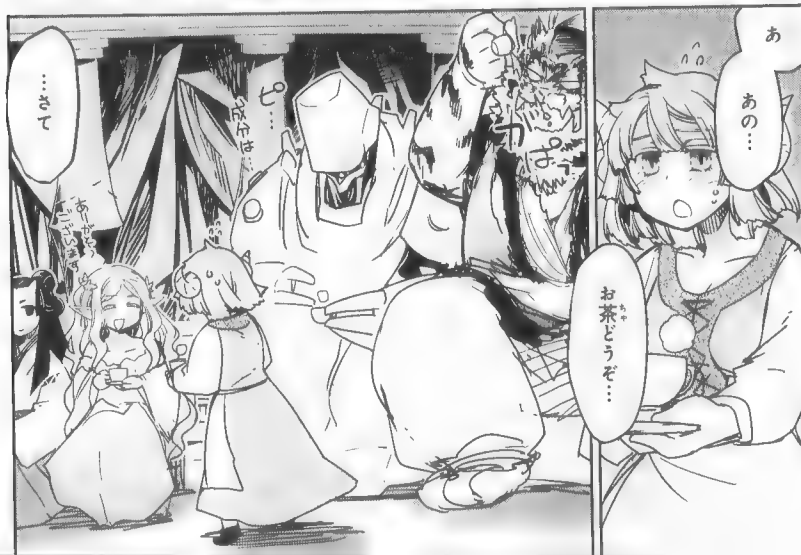




第三十三話 Archenemy and Hero

33rd chapter

道





第二回の
会議を始める
とするか



妖精族から
報告いたします

蒼魔の軍には
大きな動きは
ありません

刻印王の軍が
帰還した当初
蒼魔の領土には
緊迫した雰囲気
がありました

現在は多少
落ち着きを
取り戻したようです



蒼魔軍に
当面の動きは
なしか

そうすると…

前回の続き

蒼魔族の処遇の
問題ですか

ふむ…

我が獣牙から
提案がある

手紙を出す
というのだ？

コーフクカンコク
とかいうやつだ

降伏勧告？

暗殺や奇襲 汚い策など
武人のやることではない

そのような
ひねくれた態度では
どこの一族からも
蒼魔族は

威厳のある
一流の氏族とは
認められぬだろう

申し開きがあらば
我らの前に姿を現わせ

戦いが望みであれば
戦場でお相手いたす

この手紙を
出すことにより
いわけ

「申し開きの
チャンス」を
与えてやるのだ

その上で
無視をするなり
ご託を述べる
ようならば

それは やつらが
戦争をしたいと
言っているも同じだ

その時は まさに
合戦にて決着を
つけるしかない

そうすれば
もし仮に
蒼魔族の軍勢を
戦場で滅ぼした
あとでも

蒼魔の都に戻り
その民に言うことが
できるだろう

「お前たちの長と軍は
かくの如くこのような
無法を行った

ゆえに氏族会議は
これを処断したが
これは決して
私心からではない」とな

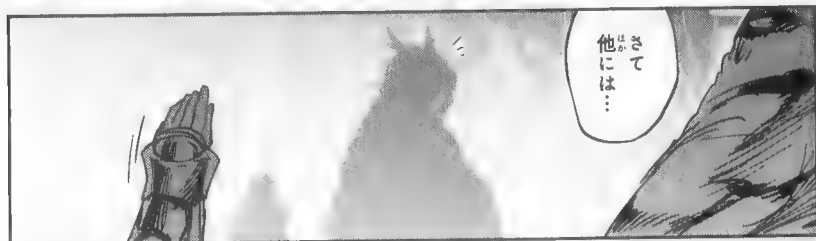
ほ

なるほど…

虎の旦那
俺はあんたを
ちつとは見直したよ

獣牙の長老どもに
知恵を求めたのだ

ジジイどもも
役に立つ時が
あるのだな





我、火竜一族を
出身とする
火竜公女と
申す者

以後
お見知りおき
くださいますよう



衛門一族の長より
お招きいただき
参上いたしました



して
提案とは？



おお...

おれ公の...

うわさの...

ニギハ...

ざんざん...

長い戦乱で
この世界の
街道という街道は
荒れ果てて

橋はあちこちで
焼け落ちて
いる
そうじゃないか

それを修理したり
なんとかしたい
という話だ

街道を…?

確かに懸念の
ひとつでは
ありましたが

莫大な
資金と労力が
かかりますよ

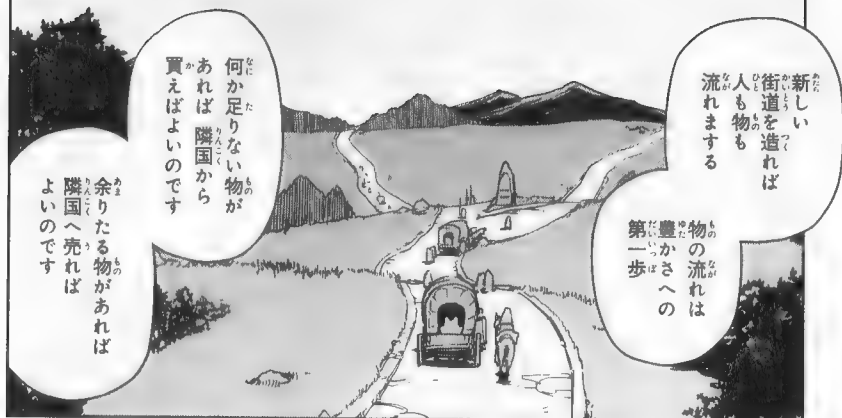
そのへんは
担当者から
聞いてくれ

はい

今回、開門都市
自治委員会の
依頼を受けて
調査しました

この街道敷設は
十分に利益を上げる
と思われま

道を造るだけで
なんで利益が
上がる?



新しい街道を造れば人も物も流れます

物の流れは豊かさへの第一歩

何か足りない物があれば隣国から買えばよいのです

余りたる物があれば隣国へ売ればよいのです



税ですか

…ふむ



そして街道を商人が行き来する際に税を徴収するのです



此度の計画ではこちらの地図に示したとおり九本の本街道を考えます

これらは現在の旧街道を利用しますゆえその長大さと比較して短期間で造れる見通し

これを九族大路と称します

さらには今後の展開としてこの九街道を補うため十八の街道も視野に入れます



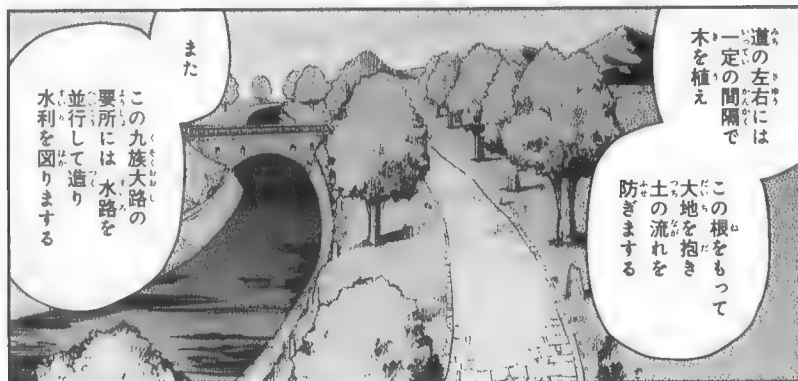
この世界を
悩ませてきた

大規模な河川の
氾濫に対する
備えとする
ゆえです



これら街道は
必要があれば
土を盛り上げ
谷を削り

可能な限り
石量で
造りまする



道の左右には
一定の間隔で
木を植え

この根をもつて
大地を抱き
土の流れを
防ぎまする

また

この九族大路の
要所には水路を
並行して造り
水利を図りまする



この魔界……
地下世界では

水のある場所と
ない場所の差が
激しすぎまする

水のある
地域からは
水を抜き
安全を確保し

ない地域へと
水を少しでも
運ぶ方策を
練るべきかと

九族大路を
九年

その後
十八枝道を
もって十八年



まさに大事業

それだけの人手
金をどうする？

今回のお願いは
それで
ございます



債符を
興しまする

債符？

債符は木の札の
ようなもので

番号が振ってあり
登録が必要で
あります

これを大量に
作りますゆえ
買っていただきとう
ございます



それを持った商人は
債符ひとつにつき
一台の馬車を

新しく造った
九族大路において
税を払うことなく
通行させる

とすれば
いかがでしょう



つまりは 事前に
税を集めるわけか

御意



その價符は
高いのか？

それなりには
なりましょう

しかしあとで
税を払ったほうが
安くつくほどでは
本末転倒となります

その価値を
どう判断するかは
商人の才覚ゆえ

あとから税を
払おうと考える方は
それでよろしい
でしょう



税なり賃なるものは
その重さ軽さよりも

不公平であることが
もつとも民の反感を
生むと思います

説明をし
有用性を説き

上位にあたる者から
積極的に價符を買えば
必ずやうまくいくと
考えます

……
俺たち

お金は

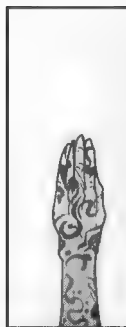
少ない

心得て
おります

巨人が一族の方には
逆にこちらから價符を
お贈りしたいほど

資金の代わりに
その強き腕を
街道敷設に
お貸しください







我らは保留だ
鉄が来るのは
ありがたいが

このような
重大事

部の民に
相談することなく
軽々に返事はできぬ



俺たちは……

実情する



意見が割れた時は
過半数という
話だったが

この話は
明確な反対がある
わけでもない

今しばらく
時間を置いて

氏族のなかで
意見を調整するのが
よからう



では

此度の会議は
これまでとする！

いやー

びっくりしたぜ

たいした計画
だったなあ

そのように
言ってもらえて
妾も嬉しく
思いまする

ひとつお願い
してもよいかや

勇者殿

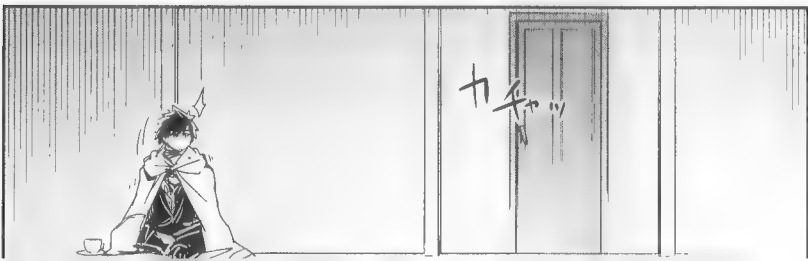
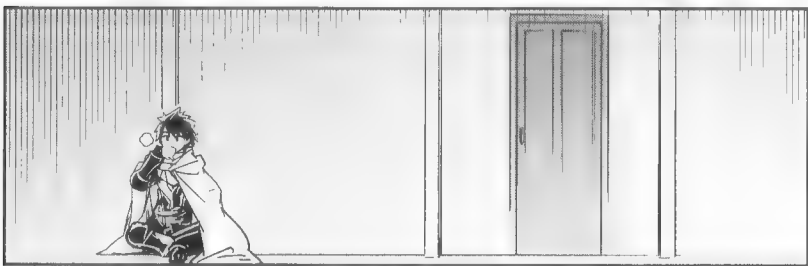
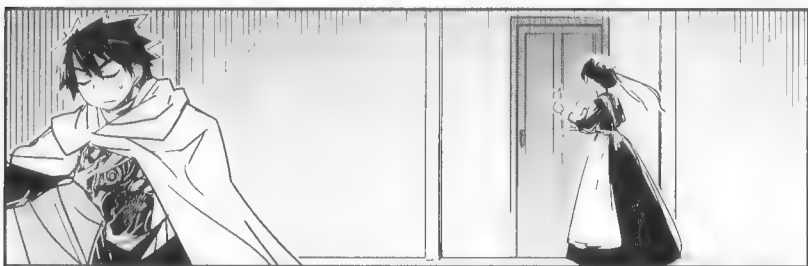
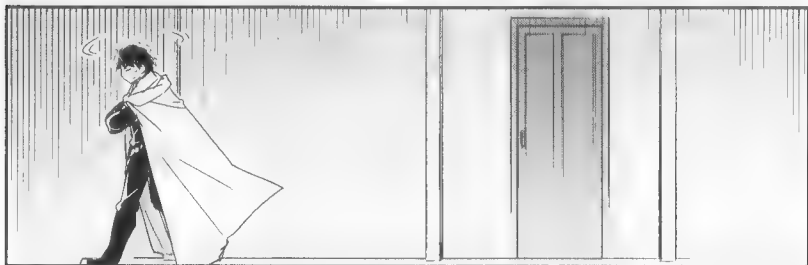
できることなら
なんでも…

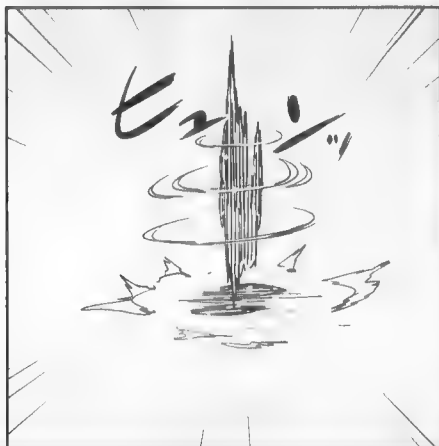
ゆうじや!?

なんぞ
おこすの?











勇者殿の
「一番大切な方」は
いらっしゃるの
ですね？

うん…

大切っていうか
みんな大切
なんだけど

みんな…

危険があつたら…

身体を張って
護れるくらい

では

妾のことは
どれくらい
大切ですか？

勇者殿はその言葉で
ずいぶん誤解を
与えています

?

クス
クス

普通の殿方は
勇者殿ほど
強くありません

護れる女子は
ひとりがよいところ

だからその言葉も
護るという行為も

告白と同じ
意味を持つので
あります

努々軽率に
そのようなことを
言っては
なりません

：「顔は与えても
野良は飼わない」

そういう
ことをしては
なりませんよ



勇者殿は
妾を護っては
くれても

妾と添い遂げては
くれぬのでしょうか？

父上が何と言おうと
妾は一番でないと
嫌であります



妾をふるにあたつては
お心を痛められるのは
無用にございます

妾も また
裏切りの徒

情けを
かけられる一理も
ありませぬゆえ



……ただ
お願いしたき
儀が







人と魔族を
殺すこと

田畑を
焼くこと

大地を砕いて
街を焼き払うこと

そのくらいじゃ
俺がでるのって



…やっぱ
俺が
ダメダメだから



臆病者の
俺が



そういう俺が
…なんかさ

ダメって
いうか…

よく
わかんないけど

…幸せに
なっちゃいけない
気がする





我が君と
最初に呼んだ
貴方が
振り向くたびに

後悔と妬心で
はち切れそうに
なるほどに



妾は幸せに
なります

妾は美しく
なります



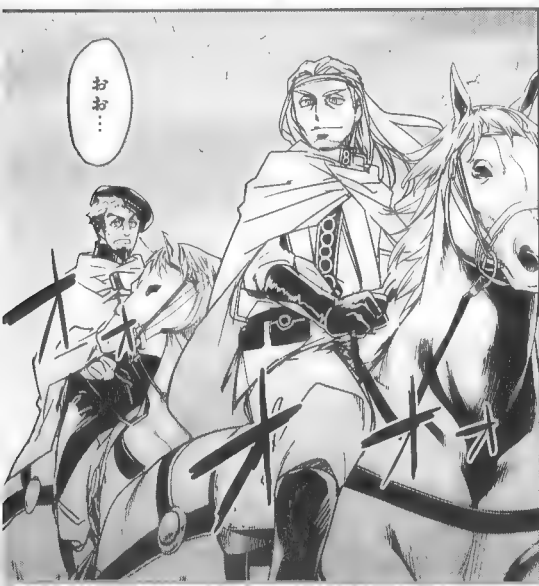
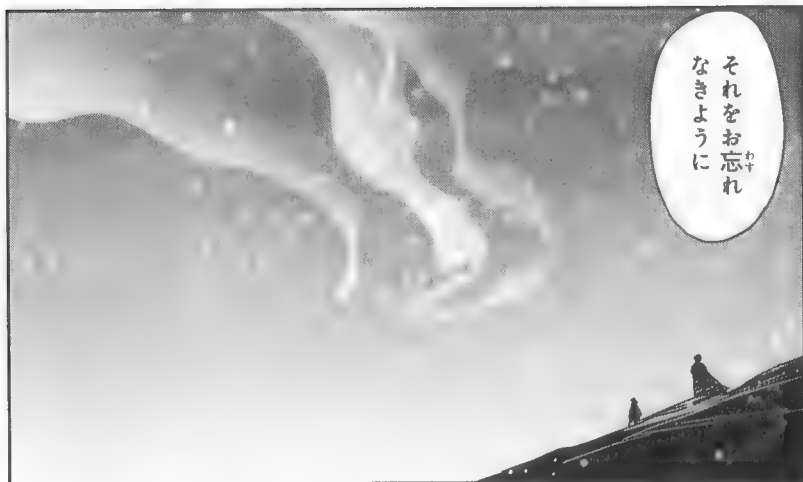
勇者殿は妾に
大きな借りが
ござりまする

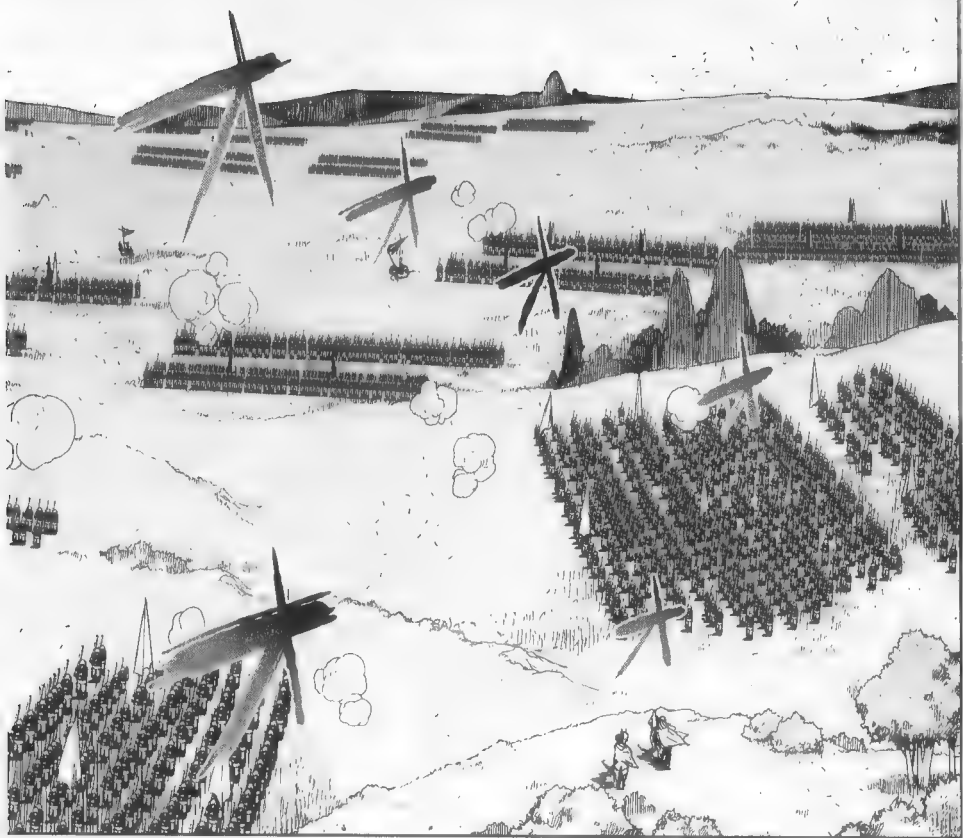
その返済は
貴方様が幸せに
なることでは
返せぬこと

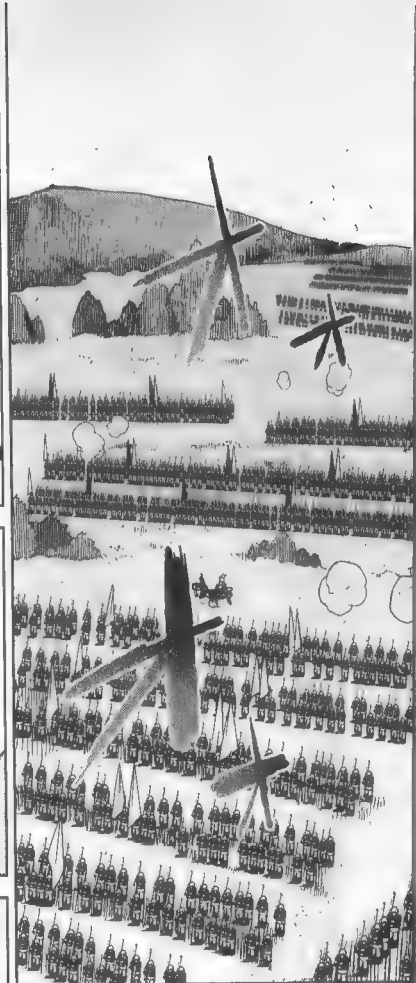
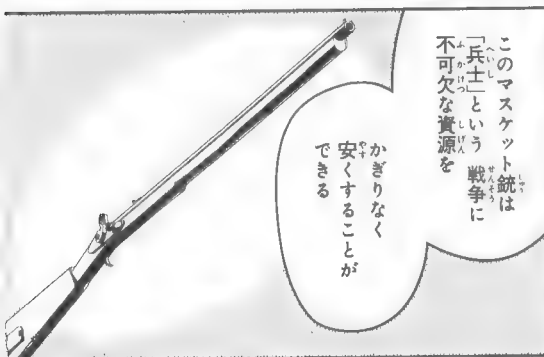


よろしい
ですかや？

これは貸して
ござりまする







しかし
欠点も多い

人数の多さは
長所だが
短所ともなりうる

食糧や弾薬を
それだけ消費する
わけだからな

また戦場では
一回の射撃が
終わったあとに

弾を込めるための
時間がかかるのも
問題だな

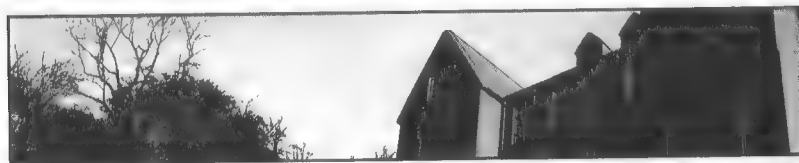
その間の射撃力が
無きに等しく
おこしな

そのあたりの
問題を片付けられる
前線指揮官さえいれば

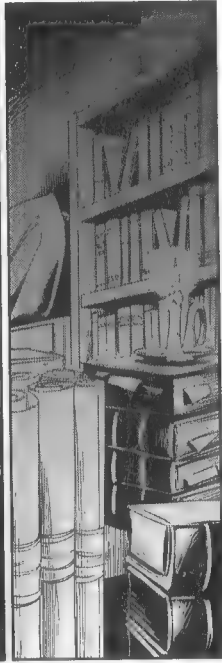
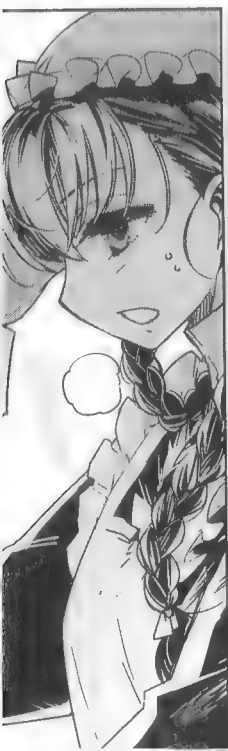
マスケット銃兵団が
大陸最強の戦力となるのは
間違いないのだがな

霧の国の灰青王が
南部討伐戦の雪辱に
燃えております

適切な助言をすれば
必ずや結果を
出すでしょう

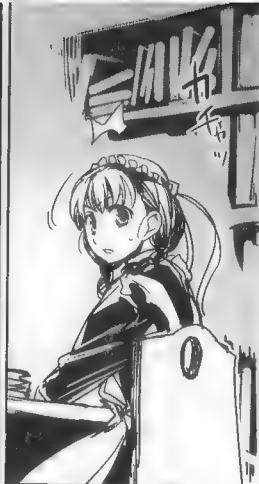








あ…



すみません



からだ
こころ
身体を壊して
しまえますよ？

根を
詰めすぎだ



当主様



いえ…

焦って
いるわけでは
ありません

何を焦って
おるのだ？











私が

私が

自分が歩くのを
止めるのは
ひどく不実なことに
思えるんです



あの日
あの広場で
叫んだから

私には
「叫んだもの」
として

やらなければ
ならないことが
あるように
思っています



ここにある二年分
すべての帳簿の整理は
終わっております

目録はすべて
こちらの小棚に
まとめておきました



：そうだと
しても

私が
選びたいんです

そなたが
負うべきことなど
なにもないのに



他の方が
作業される
ことも考えて

仕事を
引き継げるように
覚書の帳面が
こちらにあります



何を――？



：きつと
何かを見つけて
帰ってきます



…たぶん

戦いの意味を

他の誰でもなく

私自身が
見出さないと
いけないのだと
思います



私はけつきよく
メイドには
なれなかったのかも
しれません

メイド長様が授けて
くださったものは
メイドを超えると
信じます



当主様

勇者様

女騎士様

子弟の
皆さん方…

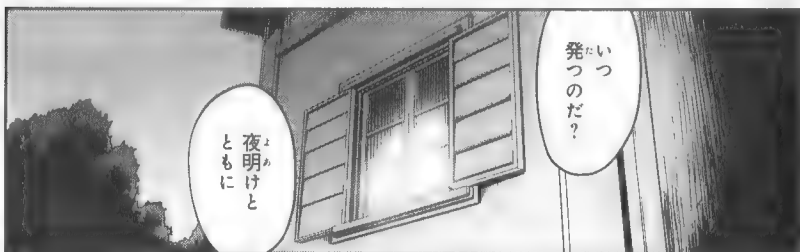
授かった
数多の教えは
どんな黄金にも
勝る宝ですから

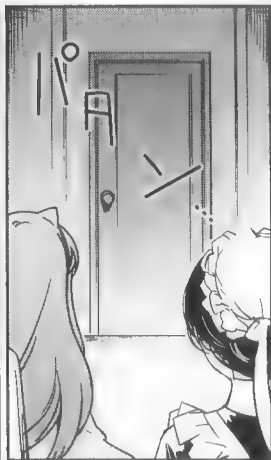


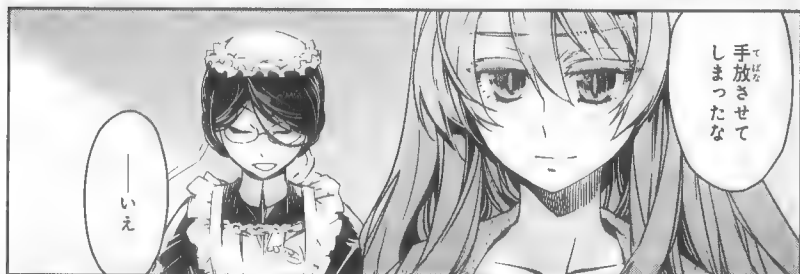
では
行くがよい

己の運命と
巡り会いに
行くのであろう？

そなたの翼には
その力がある











交易路と交易による 社会への影響

交易は古代の頃から
世界各地で行われていた。
その影響は商業にとどまらず、
社会を変容するほどの力がある。



交易を盛んにするには
人や物が移動するための道が欠かせない。

長大な交易路・シルクロード

交易路と聞いて思い浮かぶのは、やはりシルクロードだろう。紀元前306年に興ったエジプトのプトレマイオス朝は、海路を通じてすでにインドとの貿易を行っていた。このプトレマイオス朝を征服したのがローマ帝国で、インドとの貿易を引き続き続けただけでなく、絹を求めて中国へ到達した。

一方、陸路ではイスラム商人が中国へ渡っており、7世紀頃には中国に居留地も築いていた。現在でいうと、中国の西安から敦煌へ進み、ウイグル自治区にあるタリム盆地を抜けてウスベキスタンのサマルカンドへ、さらにカスピ海南方のイランを通り、レバノンのベイルート付近までが繋がっていた。

技術が未発達だった時代、複数の国の領内を通過すること、山

賊や海賊などの存在もあり、陸路、海路ともにとても安全とはいえないものだったが、それでも交易が行われていたのはたたくましい商魂ゆえだろう。

交易をきっかけに発展した中世の商業

ヨーロッパが中世を迎えた当時、文明的には中国やインド、中近東のイスラム世界が先進国で、ヨーロッパはまだ田舎も同然。そんなヨーロッパで商業が発達する契機となったのは、1096年から始まった「十字軍」だといわれている。聖地エルサレムの回復を目的に中近東へ向かった人々は、そこで初めてイスラム文化と接触した。そして、彼らによってイスラム圏の様子がヨーロッパに伝えられると、人々は驚くと同時に強い憧れを抱くようになり、イタリアの商人を中心としてイスラム圏との交易が盛んになった。

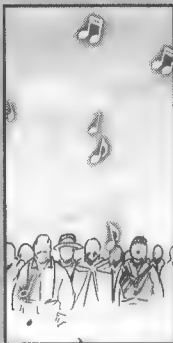
これにより、ヨーロッパ各地では交易で得た富を背景に商業都市が台頭し、ヨーロッパ圏でも交易が盛んになる。そして、経済の活性化は農村への貨幣の普及をうながし、さらに商業都市を保護した国王の権力増大など、ヨーロッパ社会に大きな影響を及ぼしたのである。

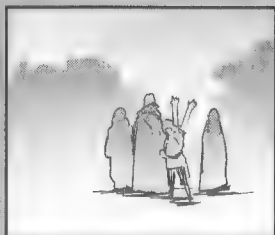
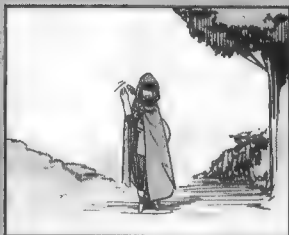
このように、交易がもたらす影響は商業だけにとどまらない。劇中では、火竜公女が物流をうながす目的で、地下世界の街道の整備を提案していた。この事業が実施されれば、地下世界でも商業が活性化し、さらに大きな進歩が見られるに違いない。



街道と同時に水路を整備すれば、
交易に水運を活用することが可能だろう。

思っていたのに







「ごきげん
殺人事件」!

貴様らの奇行も
ここまでだ



事案とか
言うな!

オレはアリ怪人の
アシナテ、ティート
弾劾をはきかけたけど
采しエマらしい長崎うぞは...

少女が怪しい
全身タイツ男に

ヘンな汁を
吹きかけられる
事案発生!



いやん

ななこ 変質者に
イジメられる!

まおゆう
魔王勇者
第三十四話







第三十四話 Archenemy and Hero 34th chapter

人間は生まれた時から世界に巻き込まれてるんです





しかしこれは
りふじん
理不尽では
ないか！



私は作者に
だんこうき
断固抗議したい！

この主人公は
しゅじんこう
まだ子供なのだぞ！

それなのに
こんな
うれし恥ずかし
ドキドキシーンが
あるとは！



ええーい！

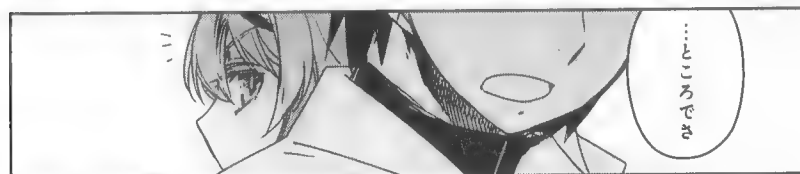
だんこうき
断固抗議だ

うるさい
なあ

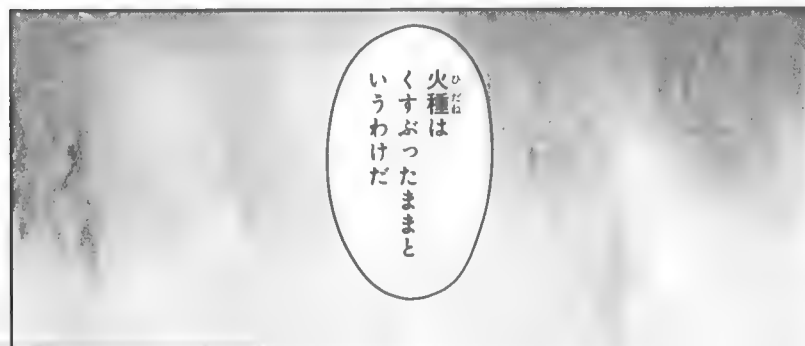


偶然とはいえ

その
唇と
くちび…

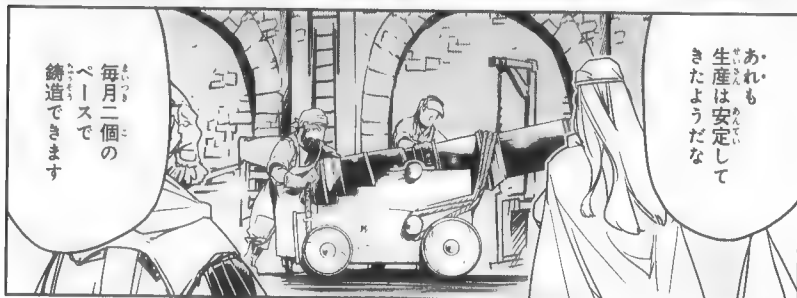
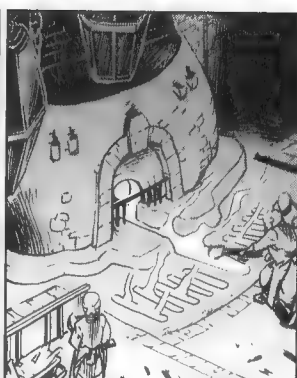
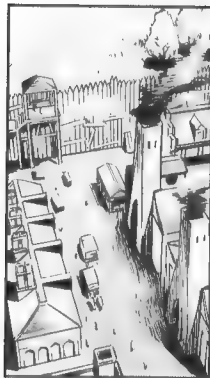














これらの武器は
さまざまな部品で
作られております

しかし
すべての部品が
高度な技術を
要するわけでは
ございません



そこで
現在のように
職人が一丁一丁
仕上げるのではなく

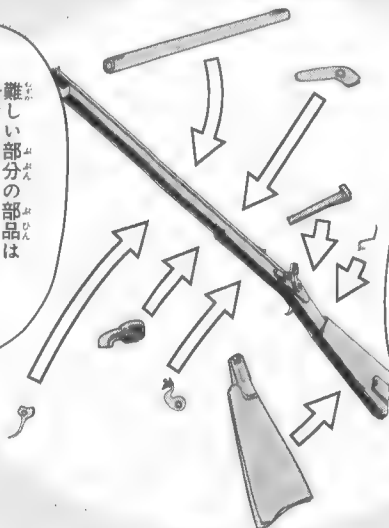
たとえば
ある部品だけを
作り続ける職人

別の部品を作る
職人というように
仕事を分けるのは
いかがでしょうか？



そうすれば
ひとりの職人が
覚える仕事の量は

少なくても
かまわないという
ことになります



難しい部分の部品は
熟練の職人にまかせ
中堅の職人は
それ以外の部品を手伝う

また新しい職人の
育成も早くなります



未熟な新入りは
親方のもとで
技術を見て
覚えるものだ



それに…

でしやばるな
若造が！

ギルドには
ギルドのやり方が
あるのだ



それは…

そうですが…



わずかばかりの
部品を作るだけで
技術が身につくものか



彼の言う分業制も
効率という点で
利点はある

ギルドの技術者の
育成も大事だが
今はひとつでも多くの
マスクетが欲しいのだ



だいたい
お前は…

そのくらいで
よからう

我は汝らの
若い力に
期待しておる

これからも
長を助け改革し
作業にいそしんで
くれよ

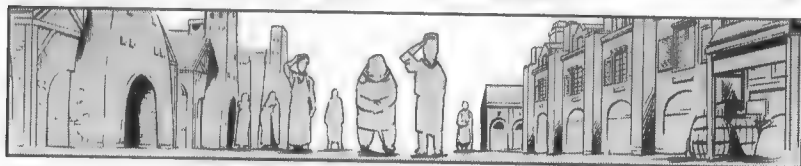
こ

光栄で
あります！

身命に
かえまして！

では
我は忙しい

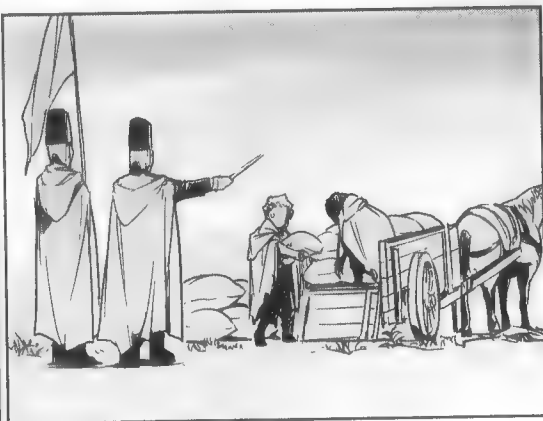
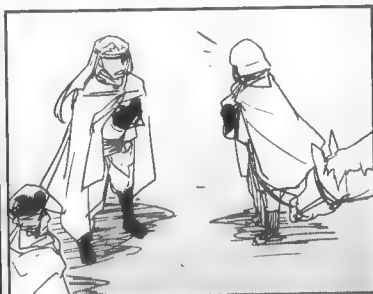
残るは次の
■会としよう



時機を見て
あの長は切れ

若手に
権力を握らせて
工房の運転速度を
最大化するのだ

心得ました





なぜアレが
聖光教会に
渡っているのだ!?



これでは言い逃れも
踏み倒しもできない
ではないか!



教会めえ
そうであつたか…



よもやとは思つたが
あの商人と結託し
我ら地方領主の力を
削ぐのが狙いか

いかが
いたしましょう?



金はあるのだ!

教会と交渉して
「小麦引き渡し証書」を
買い戻す!!



何という
屈辱だ

八代にわたり
この領土を
完全に治めてきた
この男爵家が

なにゆえ
誇り高き我が額を
教会などに下げねば
ならぬのだ!!

おのれ
聖光教会め!
あの若造めえ!

すべて
売ったのかや?

あの
「小ま引き渡し証書」を

ええ

中央聖光
教会にね

なぜ
教会に…？

引き際^{ひきばい}だったと
いうことです

あの「証書」は
強力な武器ですが

それは相手^{あいて}が取り立てを
恐^{おそ}れている間のこと

騎士^{かし}や軍^{ぐん}を持っている
領主^{りやうしゅ}たちが一斉^{いっせい}に
踏み倒^{ふみたお}すと決めたならば

武器^{ぶき}を持たない
我^{われ}ら「同盟^{どうめい}」には
取り立てる手段^{しゅだん}は
ありません



その点^{てん}
教会^{きやうかい}の後ろ盾^{うしろかた}は
中央^{ちゆうおう}最大の国
聖王国^{せいおうこく}です

貴族^{きそく}が
寄^よつてたかつても
絶対^{ぜったい}に踏み倒^{ふみたお}せない
相手^{あいて}です



今^{こん}回の件^{けん}でもっとも
大きな動き^{うごき}だったのは
旧金貨^{きゅうきんか}から新金貨^{しんきんか}への
乗り換^{のりか}えです



我が「同盟」はこの乗り換え時期にその資産のほぼすべてを

小麦などの物資の現物と「小麦引き渡し証書」に換えて保持していました

そして今度の「小麦引き渡し証書」売却で

大量の現金貨を得ることができました

この現金貨のおかげで「同盟」の資産は元の量を回復

いや
増大させました

どのくらい
儲けたのじゃ？

「同盟」が過去四年で築いたのとはほぼ同額の富です

大儲けではないか！

しかし今回得た本当の宝は金貨ではありませんからね

金貨は道具にすぎません

通商圏の
拡大

そのとおりです

南部と中央は
軍事的分裂だけではなく
経済的にも離れました

同盟は今回の取り引きで
そのどちらともに
つながりを持つことが出来た

加えて

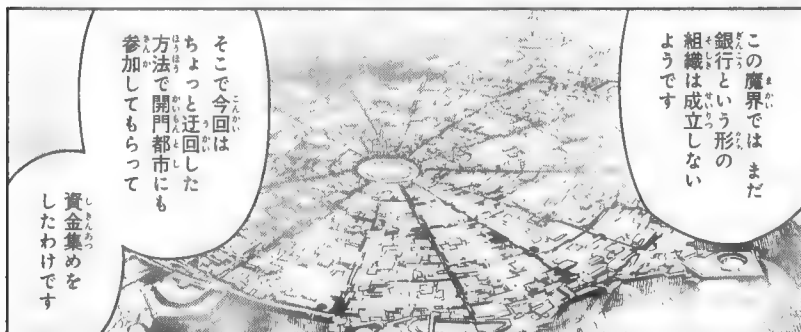
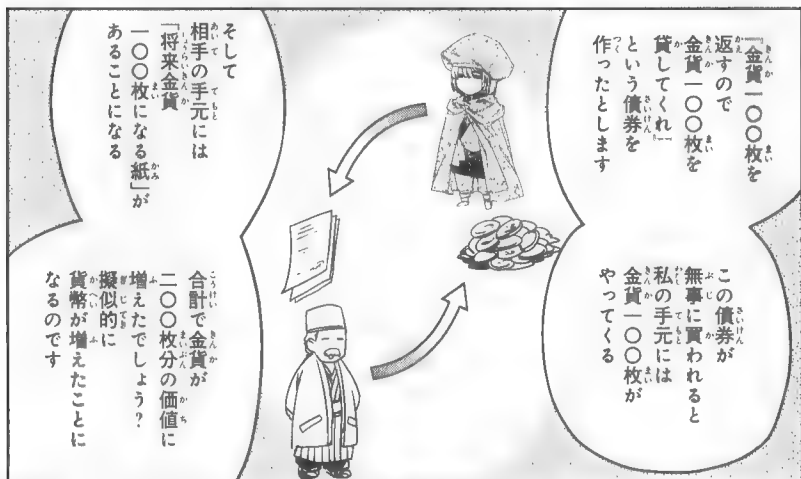
魔界、いえ
地下世界との
通商も視野に
入りました

そういえば
氏族会議に提案した
街道計画は
いかがでした？

この計画が
通らないと
通商や他の諸々も
なかなか通りません
からね

かなりよい
手応えかと
感じました







そう
睨まないで
ください



この件では
この都市にも
魔族にも魔界にも

いつさい損害を
もたらすつもりは
ありませんよ



そもそも
これは勝ち負けでは
ないですからね

「同盟」が儲ければ
誰かが損をするとい
うような種類の
活動ではないのですから



…さて



商人殿は
開門都市の衛門一族
さらには竜一族が
長である火竜大公

その娘の妻の立場を
利用してその信用を
資金に換えた

そのように
理解しましたが
いかがか？



商人殿は
言いましたね

「財産としての金と
道員としての金は
まったく違う」

後者を美しく思う
人間こそ商人を
名乗れる

…と



ええ

言いました



妻の信用を
もって得た財貨で
どれほどのことを
成し遂げてくれるか

とくに見させて
いただきますよう

妻は信用の
貸し主ですゆえ



商人殿
しやうにんの



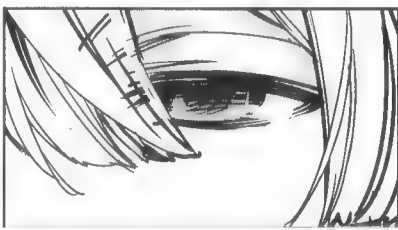
見捨てます
みす



もし妾が
恐ろしい敵に
捕えられ

このままでは
明日の朝日も
浴びれぬ――

となったら
いかがします？





え？



「見返り・抜き」
という見返りで
お助けしましょう



貴女は
機転が利くし
理解も早い

何より
冷静だし
公平だ

取引相手としては
不足がない



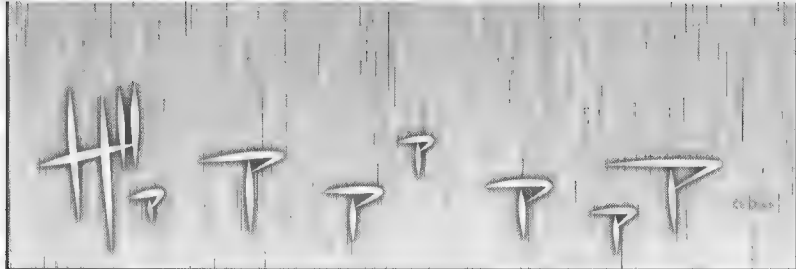
商人は
報酬なしでは
動きません

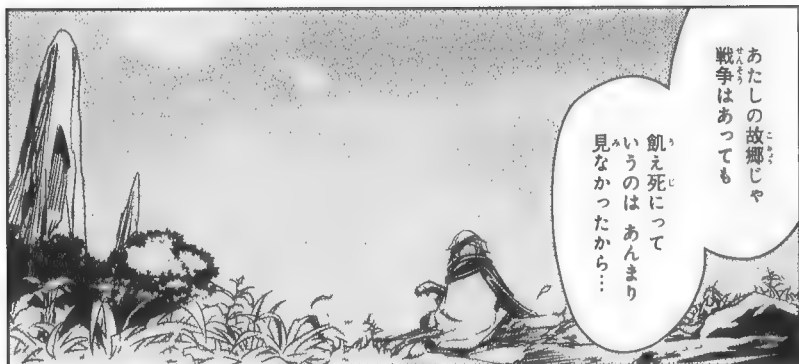
しかし













貴女は
どこへ行くの？

とりあえず
湖の国の都へ

そこに湖畔修道院が
かつて使っていた
文書館があるんです



その文書館って
いうのは
光の精霊の？

ええ
そうですよ

修道院付属の記録が
収められていると
聞いています



あたしも

ついて行って
いいかな？



その…

どうしても興味が引かれて「聖骸」について噂を追って旅をしているんだ

…それで

実はあたしは詩も戯作も書くんだ

もちろん楽器もひと通りこなす

舞台の脚本も書く

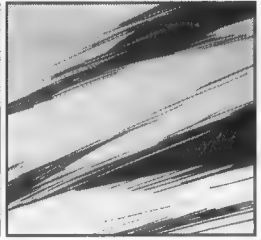
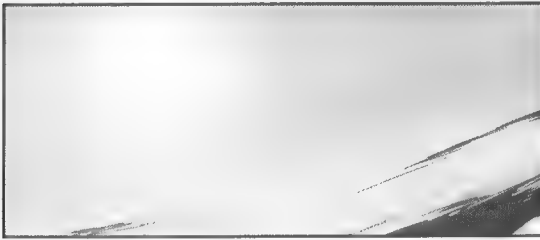
それらは一緒にのものだからね

詩想がね追ってくるような気がするんだ

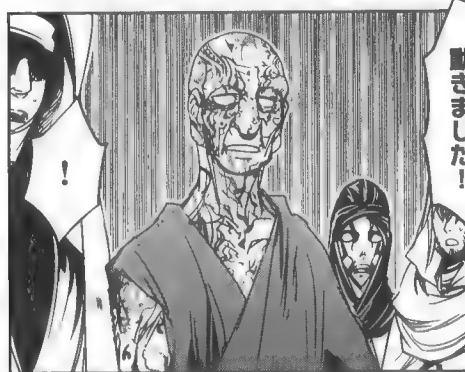
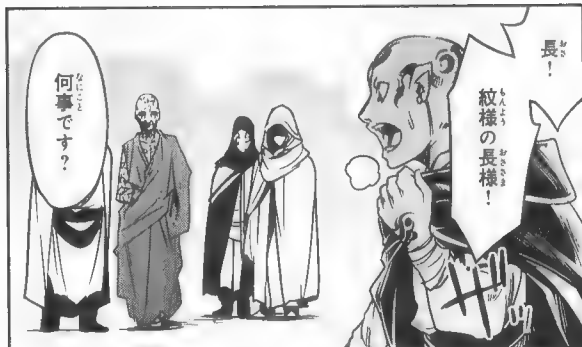
もうそこまで来ているような気がするんだけど…

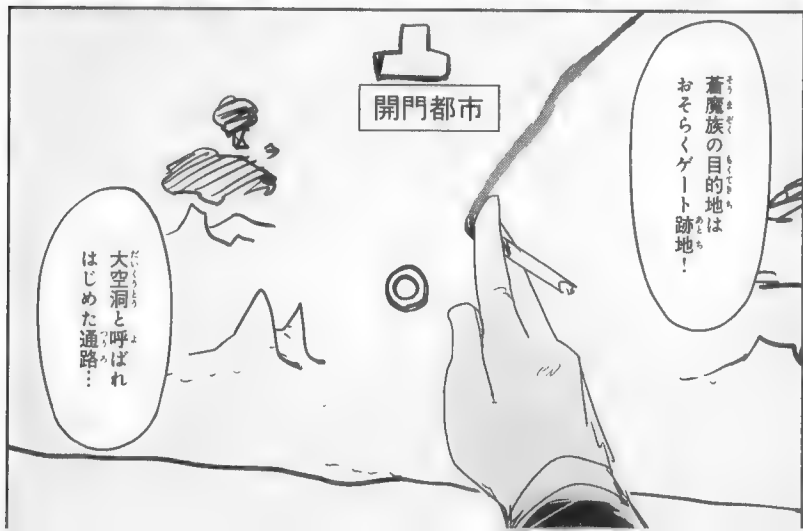
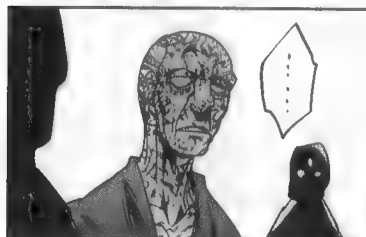
いやはやわけわからないよね

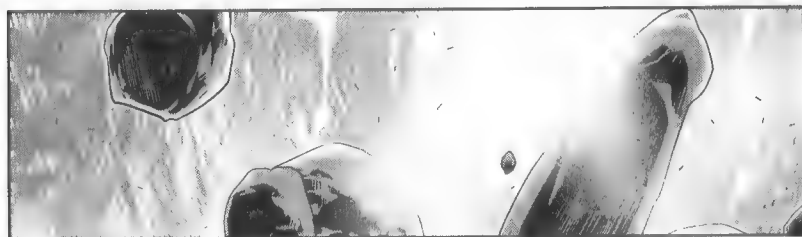












できかけの橋を
あんな軍勢で無理やり
通りやがって…

でも作業員に
大きなケガが
なかったのが
不幸中の幸いか

報せに来てくれた
妖精のおチビちゃんの
おかげだな

エヘン

チヨ
ガンバツタヨ

イッバイ
飛べ!

ああ

あんがとな

デモ
オ腰ヘツター

ははは

よし

みんな撤収だ
飯にしよう

ほーい

おー

ケガ人には
手を貸してやれよ



蒼魔族が
あいつのいる
地上に...

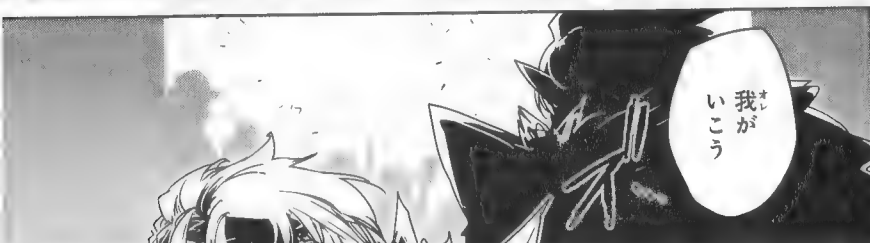
気をつけるよ
奏楽子弟

俺も
がんばるから











こんな
力が…

バカな…



まさかあれが
魔…おう…







誇り高き
蒼魔の戦士たちよ

我らの勝利だ！



小賢しい
魔王に従う魔界には
我らが帰るべき
場所はない

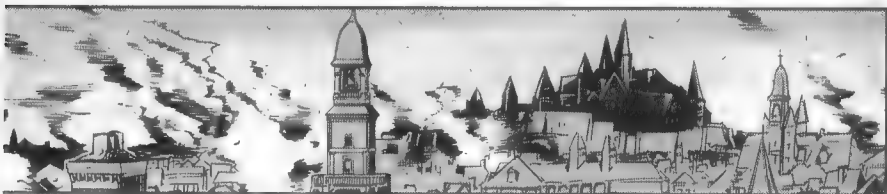
だが

仇敵
人間の国を滅ぼし
我が領土とした



地上を侵略し
人間どもを
駆逐するしか

我らに
生きる道は
ないと知れ!!



次に攻略予定の
国は、ここよりは
骨がありそう
ですな

この国の掌握を
急がせましょう



協約のことは
今しばらく
一般兵には
伏せよ

死にものぐるいに
なつてもらえば
戦の展開が楽と
いうものだ

ハッ

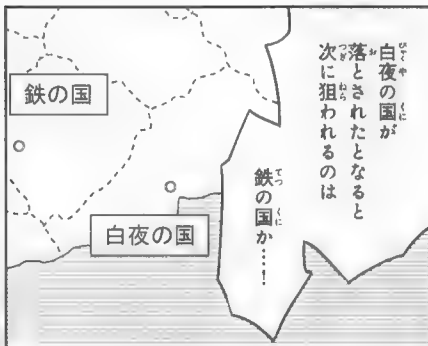
カッ
カッ





早馬を引け！

冬越し村へ
使者を派遣！



鉄の国

白夜の国

鉄の国か……！

白夜の国が
落とされたとなると
次に狙われるのは



学士殿に
お伝えしてくれ

白夜の国
その城が魔族の
攻撃により陥落と

それだけで
あの方は理解し
動いてくれる

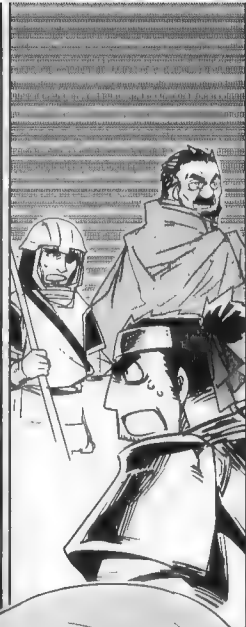


は！

了解いたしました！

私はすぐに動ける
騎兵を率いて
鉄の国へ向かう

連絡・編制
万事抜かるな！



終

第三十四話

人間は生まれた時から世界に巻き込まれてるんです

生産方法の 変化と分業制

かつて工業品の生産は
職人の手仕事で行われていた。
効率の追求から分業制が誕生。
今日の大量生産時代に通じる。

生産効率の追求から生まれた分業制

中世ヨーロッパでは、物作りは職人の手作業だった。材料の加工から完成まで、ひとりの職人が全工程を行う「家内制手工業」と呼ばれる形態だ。手作業なので、職人の腕次第で製品の品質にはバラつきが出る。自然と注文は腕のよい職人に集中するが、個人の労働力には限界があり、生産数が限られてしまうのが難点だった。

本コーナー第五回（コミックス第2巻）で触れたように、時代が流れて商人が「ギルド」を結成するようになると、これにならって職人もギルドを結成するようになった。職人ギルドは各工房で作成する製品の差を埋めるため、品質管理も行っていた。ただ、生産方法自体は変わらず、生産効率は悪いままだった。

マスクETT統をつくらしている大鉄工所。
まだすべて「作業」のようだが
「まおゆう」の世界も順実に進歩している



こうしたなか、作成の過程をいくつかの作業工程に分け、技量が劣る者にも作業可能な部分を割り振る「分業制」が登場した。ひとつの工程だけ繰り返すため作業者の技術習得が早く、比較的短時間で一定の品質のものをつくれるようになる。人手が増える分、生産効率も高い。劇中では親方が弟子を叱責する場面もあったが、分業制では簡単な工程から難しい工程へと、段階的に技術を習得させることも可能。一定品質の製品をつくるのが目的ならば、人材育成の面でも分業制は効率がよいのだ。

分業の考え方が進むと、のちには設備を他人に貸し出し、その相手に比較的簡単な作業を任せてしまう者も現われた。工程の一部を外部に発注し、生産物を買取するという方法で、これは「問屋制家内手工業」と呼ばれる。その後、さらに分業制が進むと、生産従事者も増えて管理が難しくなった。18世紀半ばからの「産業革命」以後は機械化も進み、大き過ぎる作業機械も登場する。こうした事情から、設備と各作業従事者を集めた「工場」が誕生。この過程で、もともと閉鎖的な面があったギルドは、市民革命の影響などもあって解体されていった。こうして始まった「工場制手工業」により、世の中は大量生産時代へと突入。さらに「工場制機械工業」へと進んでいった。

分業制は、多くの部品で構成される一定品質以上の品物が、大量に必要な場合にとくに効果を発揮する。マスクETT統のような軍需品の生産にはうってつけで、分業制との相性は極めて高いといえるだろう。



未熟な者でも戦力として生産に参加可能な余地があるという点は、分業制の強みのひとつだ

巻末付録 Appendix and Hero
Special appendix

イラストギャラリー







ついに、蒼魔族が

人間界へと侵攻。

一方、中央大陸が誇るカリスマは、

いよいよ、

その手腕を振るい始めていく。

略奪、陰謀、戦争――。

勇者と魔王に訪れる、

最大の危機。

相次ぐ困難を越えて、

二人は

「丘の向こう」を

その目に刻むことが

できるのだろうか。



まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」

コミックス第11巻

’14年6月発売予定

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおう魔王勇者

「この^{われ}我のものと^{ゆうしゃ}なれ、勇者よ」「断る!」⑩

漫画 ^{いしだ} 石田あきら 原作 ^{とうの} 檀乃ままれ キャラクター原案 ^{みずたまけい} 水玉螢之丞・^{といはち}toi8

2014年3月26日初版発行

発行者
山下直久

発行所 株式会社KADOKAWA
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話 / (03) 3238-8521 (営業)
<http://www.kadokawa.co.jp/>
編集 角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19 電話 / (03) 3238-8719 (編集部)

装幀・デザイン
沼利光 (D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社 製本 共同印刷株式会社

初出 / 『月刊コンプエース』'14年2月号～4月号

本書の無断複製 (コピー、スキャン、デジタル化等) 並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。



落丁・乱丁本は、送料小社負担にて、お取り替えいたします。KADOKAWA読者係までご連絡ください。(古書店で購入したもののについては、お取り替えできません)

電話049-259-1100 (9:00～17:00/土日、祝日、年末年始を除く)

〒354-0041 埼玉県入間郡三芳町藤久保550-1

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2014 KADOKAWA CORPORATION, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2014
©2011 Touno Mamare
ISBN978-4-04-121047-5 C0979